泌尿紀要20巻4号
1974年4月

女子慢性膀胱炎患者に対するセルニルトンの効果

東北大学医学部泌尿器科学教室（主任：宍戸仙太郎教授）
渡辺　洪**
猪狩大陸*
棚橋善克*
原田一哉*
斉藤雅人*
雄勝中央病院泌尿器科（部長：加藤弘彰）
加藤弘彰

CLINICAL EFFECT OF CERNILTON ON CHRONIC CYSTITIS IN WOMEN

Hiroki WATANABE, Dairoku IGARI, Yoshikatsu TANAHASHI, Kazuya HARADA and Masahito SAITOH

From the Department of Urology, Tohoku University School of Medicine (Director: Prof. S. Shishito, M. D.)

Hiroaki KATO

From the Urological Clinic, Okachi Central Hospital

Clinical effect of Cernilton on 15 female patients with chronic cystitis was examined. The results obtained were as follows:

1. Cernilton was effective in 93% of the cases.
2. This drug was effective mainly for the improvement of subjective symptoms and partly for the improvement of objective findings.
3. Oral administration of Cernilton is effective on chronic cystitis in women. Side effect was very little.

私たちは扶桑薬品工業株式会社より薬品の提供をうけ，女子慢性膀胱炎患者に対するセルニルトンの効果を検討したので報告する．

症　例

1971年9月より1973年9月までの約2年間に，東北大学医学部附属病院泌尿器科および秋田県湯沢市雄勝中央病院泌尿器科を訪れた，29歳より77歳までの既婚女子患者15例を対象とした．患者の選択にあたっては，膀胱炎症状を訴えて来院し，諸検査により膀胱炎と診断され，かつ1カ月以上の諸種治療をおこなっても症状が好転しなかった症例をいちおうの基準とした．

方　法

上記症例にセルニルトン錠1日6錠を3回に分服服用させた．投与に伴うと思われる副作用が現われたさいには，ただちに服用を中止させた．

投与期間は3～5週間を原則としたが，患者の都合でやむをえず2週間程度に終ったものもあった．他の薬剤はなるべく併用しないようにしたが，とくに細菌尿の強いものには抗生物質などを期間を限って投与した．

同一の患者には必ず同一の医師が診察にあたるよう

**講師，*研究生

にし，投与の前後に自覚症状の聴取，尿検査，膀胱鏡検査をおこなってその変化を記載した．有効無効の判定にあたっては，患者自身の申告と他覚所見の両者を参考にし，総合判定をおこなった．

なお所見や判定の記載は，すべて卄，＋，－の3段階に分けた．

結　　果

各症例における投与効果を Table 1 に示した．有効と判定された症例は，自覚症状15例中13例(87%)，尿所見15例中5例（33%），膀胱鏡所見14例中9例(64%）で，総合判定としては15例中14例（93%）においてなんらかの投与効果が認められた．

Table 1. 投 与 効 果

症例番号	年齢	投与日数	自覚症状			尿所見				膀胱鏡所見			効果			副作用	併用薬剤	総合判定
			頻尿	排尿時痛	残尿感	赤血球	白血球	上皮細胞	蛋白	発赤	血管変化	浮腫	自覚症状	尿所見	膀胱鏡			
1	29	26	卄 ＋	＋ －	＋ －	－ －	－ －	卄 ＋	－ －	＋ ＋	＋ ＋	＋ －	卄	＋	－	－	－	＋
2	31	20	卄 ＋	＋ －	卄 ＋	－ －	－ －	＋ ＋	－ －	＋ ＋	＋ ＋	＋ ＋	－	－	－	－	抗生物質	－
3	65	33	＋ ＋	卄 ＋	＋ ＋	－ －	－ －	－ ＋	－ －	卄 ＋	卄 卄	＋ －	＋	－	＋	－	－	＋
4	49	38	＋ ＋	卄 －	卄 ＋	－ －	－ －	＋ ＋	－ －	卄 ＋	卄 卄	－ －	卄	－	＋	－	－	卄
5	67	30	＋ －	－ －	－ －	－ －	－ －	－ －	－ －	＋ 卄	＋ 卅	＋ ＋	＋	－	－	－	抗生物質	＋
6	77	13	卄 ＋	－ －	－ －	－ －	－ －	＋ ＋	－ －	＋ ＋	－ ＋	＋ －	＋	－	－	－	－	＋
7	47	21	＋ －	－ －	＋ －	－ －	－ －	－ ＋	－ －	＋ －	＋ ＋	＋ －	＋	－	＋	便秘	－	＋
8	67	28	卄 ＋	－ －	＋ －	－ －	－ －	＋ －	－ －	－ －	＋ －	＋ －	＋	－	＋	－	－	＋
9	48	28	＋ －	－ －	＋ －	－ －	－ －	＋ ＋	－ －	－ －	－ －	＋ －	＋	－	＋	－	－	＋
10	46	21	－ －	－ －	＋ －	－ －	卄 ＋	＋ ＋	＋ ＋				＋	＋		－	－	＋
11	35	14	± ±	＋ －	＋ －	－ －	－ －	＋ ＋	－ －	＋ －	－ －	－ －	卄	－	＋	－	－	卄
12	49	21	－ －	＋ －	－ －	－ －	＋ －	＋ －	－ －	－ －	－ －	－ －	＋	＋	－	－	－	＋
13	39	31	＋ ＋	＋ ＋	＋ ＋	－ －	－ －	＋ ＋	－ －	卄 ＋	卅 ＋	卄 －	－	－	卄	－	－	＋
14	62	22	＋ －	－ －	＋ －	＋ －	－ －	－ －	－ －	卄 ＋	卄 ＋	＋ ＋	＋	＋	＋	－	－	＋
15	30	20	＋ －	＋ －	－ －	＋ －	卄 ＋	－ －	－ －	＋ －	＋ ＋	＋ －	＋	＋	＋	－	－	＋

（上段は投与前，下段は投与後の所見）

副作用は1例に便秘がみられただけであった．

考　　察

セルニルトン Cernilton ® はスウェーデンの A B Cernelle 社において開発された植物花粉の抽出製剤で，本来は強壮剤の目的で使用されていたものであるが，そのご慢性前立腺炎や前立腺肥大症に有効であることが注目されるようになった内服剤である．

1錠中セルニチンポーレンエキス 63 mg を含有するが，この物質はチモシイ（26%），とうもろこし(26%），ライ麦（19%），ヘーゼル（6%），柳属植物(6%），ハコヤナギ（6%），フランスギク（6%），松（5%）の8種類の植物花粉より抽出されるものである．その化学構造は不詳であるが，糖分，ビタミン，ステロイド様物質，アミノ酸などが含まれているといわれている．

その作用は，平滑筋の緊張もしくは攣縮にもとづく排尿促進作用，浮腫を抑制する抗炎症作用，前立腺の成長を妨げる前立腺抑制作用などに要約されるが，利尿効果およびホルモン効果は認められない．

私たちは以前，慢性前立腺炎に対して本剤を投与し，対象20例中著効8例，有効7例，無効5例（有効

率75%）という結果を得て報告した[1]．

また本邦における前立腺肥大症に対する治験成績では，自覚症状に対して60～90%有効で，これは二重盲検法でも確認されているという．しかしその主要効果は自覚症状の改善であって，他覚所見についてはとくに明らかな影響はないようである[2]．

この頻尿，残尿感，会陰部不快感などの自覚症状の改善については，かなり安定した効果を示すので，同じような症状を訴える女子膀胱炎患者に対しても本剤は有効なのではないかという着想のもとに，今回の治験がおこなわれた．

もちろん急性膀胱炎患者には抗生物質が著効を示し，比較的容易に症状が消失するので，治験の対象としてはいわゆる慢性膀胱炎患者を選んだ．慢性膀胱炎の定義はむずかしいが，今回は1カ月以上諸種治療をおこなっても症状が好転しない難治性の膀胱炎で，かつ他の泌尿器系疾患は認められないものをいちおうの選択の基準とした．

投与効果には注目すべきものがあった．投与開始後1～2週間で多くの患者は長い間苦しんでいた症状が緩解したことを訴え，治験期間が終ってもなお本剤の継続を希望するものが多くみられた．

さらに自覚症状ばかりでなく，膀胱鏡所見においても一部の症例で著明な改善がみられた．もちろん膀胱炎には自然治癒がよくおこりうるが，長期間にわたって膀胱鏡的に強い炎症症状を示していた症例が，本剤の投与によってはじめて炎症の消退を確認されたこともときどきあり，本剤が他覚的にも有効であることは明らかであった．

今回の治験の総合判定における有効率は93%で，この種の治験には珍しいほど高い値を示したが，実際に投与をおこなった医師としてこの数字は決してover-estimateではないように思う．

泌尿器科の外来勤務をした者なら，だれしもいつまでもかよってくる慢性膀胱炎患者の処置には窮した経験をもっていよう．頑固な愁訴が続くままに，不必要な抗生物質を長期にわたって投与し，耐性菌の発生や副作用の発現を招いてしまうこともよくある．そのような場合に，長期投与をおこなってもほとんど副作用の心配がなく，しかも自覚症状がよく改善される本剤の使用は，まことに好適であると思われる．

結　　論

女子慢性膀胱炎患者15例を対象にセルニルトンの投与効果を検討し，つぎの結果を得た．

1）投与による有効率は93%であった．

2）本剤はとくに自覚症状の改善に有効であるが，一部の症例で他覚所見のうえにも緩解がみられた．

3）本剤の投与は，女子慢性膀胱炎患者に対して明らかに有効であり，副作用の少ない点からみても，のぞましい薬剤であると考える．

ご指導ご校閲をいただいた宍戸仙太郎教授に深謝する．

文　　献

1）加藤哲郎・ほか：慢性前立腺炎に対するセルニルトンの使用知見，泌尿紀要，**16**：192，1970．

2）宍戸仙太郎・渡辺　決：老年者の薬物療法—前立腺肥大症，Geriat. Med.，**11**：523，1973．

（1974年2月6日迅速掲載受付）